



デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの使用方法

この章では、Cisco NX-OS デバイス上でファイルシステムを使用する方法について説明します。この章は、次の内容で構成されています。

- [デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの概要, 1 ページ](#)
- [ファイル システム、ディレクトリ、およびファイルのライセンス要件, 4 ページ](#)
- [外部フラッシュ デバイスのフォーマット, 4 ページ](#)
- [ディレクトリの操作, 5 ページ](#)
- [ファイルの使用, 8 ページ](#)
- [アーカイブ ファイルの操作, 13 ページ](#)
- [ファイル システムの使用例, 16 ページ](#)
- [ファイル システム パラメータのデフォルト設定, 20 ページ](#)
- [ファイル システムに関する追加情報, 20 ページ](#)
- [ファイル システムの機能の履歴, 20 ページ](#)

デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの概要

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルについて説明します。

ファイルシステム

ローカルファイルシステムを指定するための構文は、`filesystem:[//modules/]` です。次の表に、デバイス上で参照可能な各種ファイルシステムの説明を示します。

表 1: ファイルシステムの構文の構成要素

| ファイルシステム名 | モジュール | 説明 |
|-----------|---------------------------|---|
| bootflash | sup-active sup-local | イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにアクティブスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。初期デフォルトディレクトリは bootflash です。 |
| | sup-standby sup-remote | イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにスタンバイスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。 |
| slot0 | — | システムイメージ、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにスーパーバイザモジュールに搭載された外部 CompactFlash メモリ。 |
| volatile | — | スーパーバイザモジュールにある、一時的または保留中の変更のために使用される揮発性 RAM (VRAM)。 |
| nvrाम | — | スーパーバイザモジュールにある、スタートアップコンフィギュレーションファイルの保管のために使用される、不揮発性 RAM (NVRAM)。 |

| ファイル システム名 | モジュール | 説明 |
|------------|-------|---|
| log | — | ロギング ファイル統計情報を格納する、アクティブスーパーバイザ上のメモリ。 |
| system | — | 実行コンフィギュレーション ファイルを格納するために使用される、スーパーバイザ モジュール上のメモリ。 |
| debug | — | デバッグ ログに使用される、スーパーバイザ モジュール上のメモリ。 |
| usb1 | — | イメージ ファイル、コンフィギュレーション ファイル、およびその他のファイルを格納するためにスーパーバイザ モジュールに搭載された外部USB フラッシュ メモリ。 |
| usb2 | — | イメージ ファイル、コンフィギュレーション ファイル、およびその他のファイルを格納するためにスーパーバイザ モジュールに搭載された外部USB フラッシュ メモリ。 |

ディレクトリ

bootflash: および外部フラッシュ メモリ (slot0:、usb1:、およびusb2:) にディレクトリを作成できます。これらのディレクトリ間を移動して、ファイルの保存に使用できます。

ファイル

bootflash:、volatile:、slot0:、usb1:、およびusb2: ファイルシステムにファイルを作成し、アクセスします。system: ファイルシステムでは、ファイルへのアクセスのみ行うことができます。 **debug logfile** コマンドに指定されたデバッグ ログファイルには、debug: ファイルシステムを使用できます。FTP、Secure Copy (SCP)、Secure Shell FTP (SFTP)、およびTFTPを使用して、リモートサーバからシステムイメージファイルなどのファイルをダウンロードすることもできます。

ファイルシステムに対する仮想化のサポート

ファイルシステム、ディレクトリ、ファイルのほとんどの設定および操作は、仮想デバイスコンテキスト (VDC) に対してローカルです。1つの例外として、外部フラッシュ デバイスのフォーマットがあり、これはデフォルトの VDC から実行する必要があります。VDC の詳細については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Virtual Device Context Configuration Guide』を参照してください。

ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

| 製品 | ライセンス要件 |
|-------------|---|
| Cisco NX-OS | ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの使用にライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。Cisco NX-OS のライセンススキームの詳細は、『Cisco NX-OS ライセンス ガイド』を参照してください。 |

外部フラッシュ デバイスのフォーマット

外部フラッシュ デバイスをフォーマットすると、デフォルト VDC から内容が消去され、工場出荷時の状態に復元されます。



(注) 破損したブートフラッシュをフォーマットを使用して回復させる方法については、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Troubleshooting Guide』、『Cisco MDS 9000 Family NX-OS Troubleshooting Guide』を参照してください。

はじめる前に

デフォルト VDC にいることを確認します。

アクティブなスーパーバイザ モジュールに外部フラッシュ デバイスを挿入します。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--------------------------------|
| ステップ 1 | dir {slot0: usb1: usb2:} 例： switch# dir slot0: | (任意) 外部フラッシュ デバイスの内容を表示します。 |
| ステップ 2 | format {slot0: usb1: usb2:} 例： switch# format slot0: | 外部フラッシュ デバイスをフォーマットします。 |

ディレクトリの操作

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでディレクトリを操作する手順を説明します。

カレント ディレクトリの特定

カレント ディレクトリのディレクトリ名を表示できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|-------------------------------------|-----------------------|
| ステップ 1 | pwd 例： switch# pwd | カレント ディレクトリの名前を表示します。 |

カレント ディレクトリの変更

ファイルシステムの操作のためカレント ディレクトリを変更できます。初期デフォルト ディレクトリは bootflash: です。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | pwd 例： switch# pwd | (任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。 |
| ステップ 2 | cd { <i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i> } 例： switch# cd slot0: | 新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されません。 |

ディレクトリの作成

bootflash: およびフラッシュ デバイス ファイル システムでディレクトリを作成できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | pwd 例： switch# pwd | (任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。 |
| ステップ 2 | cd { <i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i> } 例： switch# cd slot0: | (任意) 新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |
| ステップ 3 | mkdir <i>[filesystem:[//module/]]directory</i> 例： switch# mkdir test | 新しいディレクトリを作成します。 <i>filesystem</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 <i>directory</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 |

ディレクトリの内容の表示

ディレクトリの内容を表示できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | dir [<i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i>] 例： switch# dir bootflash:test | ディレクトリの内容を表示します。デフォルト値は、現在の作業ディレクトリです。ファイルシステム名およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイルシステムから削除できます。

はじめる前に

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | pwd 例： switch# pwd | (任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。 |
| ステップ 2 | dir [<i>filesystem</i> : <i>//module/</i>][<i>directory</i>] 例： switch# dir bootflash:test | (任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。 |
| ステップ 3 | rmdir [<i>filesystem</i> : <i>//module/</i>] <i>directory</i> 例： switch# rmdir test | ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール (リモート) 上のすべてのファイル システムにアクセスできます。この機能は、アクティブ スーパーバイザ モジュールにファイルをコピーしたら、同じファイルをスタンバイ スーパーバイザ モジュール上にも存在させる必要がある場合に役立ちます。アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイル システムにアクセスするには、`filesystem://sup-remote/` または `filesystem://sup-standby/` を使用して、ファイルのパスにスタンバイ スーパーバイザ モジュールを指定します。

ファイルの使用

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでファイルを使用する手順を説明します。

ファイルの移動

ディレクトリ内のファイルを別のディレクトリに移動できます。



注意

宛先ディレクトリに同名のファイルがすでに存在する場合は、そのファイルは移動対象のファイルによって上書きされます。

move コマンドを使用して、同じディレクトリ内でファイルを移動することにより、ファイルの名前を変更できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | pwd 例 : switch# pwd | (任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。 |
| ステップ 2 | dir [filesystem://module/][directory] 例 : switch# dir bootflash | (任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイル システムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |
| ステップ 3 | move [filesystem://module/][directory /] directory/]source-filename { filesystem://module/][directory /] | ファイルを移動します。 ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--|--|--|
| | <code> directory/}[target-filename] target-filename}</code> 例： <pre>switch# move test old_tests/test1</pre> | <i>target-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。 |

ファイルのコピー

ファイルのコピーは、同じディレクトリまたは別のディレクトリのいずれかで作成できます。



(注) **dir** コマンドを使用して、コピー先のファイルシステムに十分な領域があることを確認します。十分な領域が残っていない場合は、**delete** コマンドを使用して不要なファイルを削除します。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|---|
| ステップ 1 | pwd 例： <pre>switch# pwd</pre> | (任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。 |
| ステップ 2 | dir <code>[filesystem:[//module/][directory]]</code> 例： <pre>switch# dir bootflash</pre> | (任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |
| ステップ 3 | copy <code>[filesystem:[//module/][directory/] directory/]source-filename {filesystem:[//module/][directory/] directory/}[target-filename]</code> 例： <pre>switch# move test old_tests/test1</pre> | ファイルをコピーします。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。 |

ファイルの削除

ディレクトリからファイルを削除できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | dir <i>[filesystem://module/][directory]</i> 例： switch# dir bootflash | (任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |
| ステップ 2 | delete <i>{filesystem://module/}[directory/ directory/]filename</i> 例： switch# move test old_tests/test1 | ファイルを削除します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 注意 1つのディレクトリを指定している場合、 delete コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。 |

ファイル内容の表示

ファイルの内容を表示できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|----------------|
| ステップ 1 | show file <i>[filesystem://module/][directory/]filename</i> 例： switch# show file bootflash:test-results | ファイルの内容を表示します。 |

ファイルチェックサムの表示

ファイルの整合性をチェックするチェックサムを表示できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|----------------------------------|
| ステップ 1 | show file <code>[filesystem:[//module/]][directory/]filename {cksum md5sum}</code> 例： switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum | ファイルのチェックサムまたは MD5 チェックサムを表示します。 |

ファイルの圧縮および圧縮解除

Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して Cisco NX-OS デバイス上のファイルを圧縮および圧縮解除できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | dir <code>[filesystem:[//module/]directory]</code> 例： switch# dir bootflash: | (任意) カレント ディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |
| ステップ 2 | gzip <code>[filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename</code> 例： switch# gzip show_tech | ファイルを圧縮します。ファイルが圧縮されると、.gz サフィクスが付けられます。 |
| ステップ 3 | gunzip <code>[filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename .gz</code> 例： switch# gunzip show_tech.gz | ファイルを圧縮解除します。圧縮解除するファイルのサフィクスは、.gz である必要があります。ファイルが圧縮解除されると、サフィクスは .gz ではなくなります。 |

ファイルの最後の行の表示

ファイルの最後の行を表示できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | tail <i>[filesystem:[//module/]][directory/]filename</i> <i>[lines]</i> 例： switch# tail ospf-gr.conf | ファイルの最後の行を表示します。デフォルトの行数は 10 です。有効な範囲は 0 ~ 80 行です。 |

ファイルへの **show** コマンド出力のリダイレクト

show コマンド出力は、bootflash:、slot0:、volatile:、またはリモートサーバ上のファイルにリダイレクトできます。また、コマンド出力のフォーマットを指定することもできます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | terminal redirection-mode {ascii zipped} 例： switch# terminal redirection-mode zipped | (任意) ユーザセッションに対して show コマンド出力のリダイレクションモードを設定します。デフォルトモードは ascii です。 |
| ステップ 2 | <i>show-command ></i> <i>[filesystem:[//module/]][directory] [directory /]filename</i> 例： switch# show tech-support > bootflash:techinfo | show コマンドからの出力をファイルにリダイレクトします。 |

ファイルの検索

特定のストリングで始まる名前を持つファイルを現在の作業ディレクトリとそのサブディレクトリで検索できます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|---|
| ステップ 1 | pwd 例： switch# pwd | (任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。 |
| ステップ 2 | cd {filesystem:[//module/][directory] directory} 例： switch# cd bootflash:test_scripts | (任意) デフォルトディレクトリを変更します。 |
| ステップ 3 | find filename-prefix 例： switch# find bgp_script | 指定したファイル名プレフィックスで始まるすべてのファイル名をデフォルトディレクトリとそのサブディレクトリで検索します。ファイル名プレフィックスでは、大文字と小文字が区別されます。 |

アーカイブファイルの操作

Cisco NX-OS ソフトウェアは、アーカイブファイルをサポートしています。アーカイブファイルを作成したり、既存のアーカイブファイルにファイルを追加したり、アーカイブファイルからファイルを抽出したり、アーカイブファイル内のファイルのリストを表示したりすることができます。

アーカイブファイルの作成

アーカイブファイルを作成し、アーカイブファイルにファイルを追加できます。次の圧縮タイプを指定できます。

- bzip2
- gzip
- 未圧縮

デフォルト値は gzip です。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | <code>tar create {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list</code> | <p>アーカイブファイルを作成し、アーカイブファイルにファイルを追加します。ファイル名は英数字で指定します（大文字と小文字は区別されません）。最大文字数は 240 です。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>bz2-compress、gz-compress、および uncompressed のキーワードは、アーカイブにファイルを追加するとき（または後で追加するとき）に使用する圧縮ユーティリティと、ファイルを抽出するとき使用する解凍ユーティリティを決定します。アーカイブファイルに拡張子を指定しない場合、デフォルト値は次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bz2-compress の場合、拡張子は <code>.tar.bz2</code> です。 • gz-compress の場合、拡張子は <code>.tar.gz</code> です。 • uncompressed の場合、拡張子は <code>.tar</code> です。 <p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されません。</p> |

次に、gzip 圧縮アーカイブファイルを作成する例を示します。

```
switch# tar create bootflash:config-archive gz-compress bootflash:config-file
```

アーカイブファイルへのファイルの追加

Cisco NX-OS デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを追加できます。

はじめる前に

Cisco NX-OS デバイスでアーカイブファイルを作成しました。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | <code>tar append {bootflash: volatile:} archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list</code> | <p>既存のアーカイブファイルにファイルを追加します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。</p> |

次に、既存のアーカイブファイルにファイルを追加する例を示します。

```
switch# tar append bootflash:config-archive.tar.gz bootflash:new-config
```

アーカイブファイルからのファイルの抽出

ファイルは、Cisco NX-OS デバイス上の既存のアーカイブファイルに抽出できます。

はじめる前に

Cisco NX-OS デバイスでアーカイブファイルを作成しました。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | <code>tar extract {bootflash: volatile:} archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: volatile:}[/directory-name]] [verbose]</code> | <p>既存のアーカイブファイルからファイルを抽出します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>keep-old キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p> |

| コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------------|--|
| | <p>screen キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されたファイルの内容を端末画面に表示することを指定します。</p> <p>to キーワードは、ターゲットファイルシステムを指定します。ディレクトリ名を含めることができます。ディレクトリ名は、240 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルの名前を表示することを指定します。</p> |

次に、既存のアーカイブファイルからファイルを抽出する例を示します。

```
switch# tar extract bootflash:config-archive.tar.gz
```

アーカイブファイルのファイル名の表示

tar list コマンドを使用して、アーカイブファイル内のファイルの名前を表示できます。

```
tar list {bootflash:|volatile:}archive-filename
```

アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。

```
switch# tar list bootflash:config-archive.tar.gz
config-file
new-config
```

ファイルシステムの使用例

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでのファイルシステムの使用例を示します。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash://sup-remote
12198912   Aug 27 16:29:18 2003  m9500-sflek9-kickstart-mzg.1.3.0.39a.bin
1864931   Apr 29 12:41:59 2003  dplug2
12288     Apr 18 20:23:11 2003  lost+found/
12097024  Nov 21 16:34:18 2003  m9500-sflek9-kickstart-mz.1.3.1.1.bin
41574014  Nov 21 16:34:47 2003  m9500-sflek9-mz.1.3.1.1.bin

Usage for bootflash://sup-remote
67747169 bytes used
```



```
116812447 bytes free
184559616 bytes total
```

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash://sup-remote/aOldConfig.txt
```

ファイルの移動

次に、外部フラッシュ デバイス上のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move slot0:samplefile slot0:mystorage/samplefile
```

次に、デフォルト ファイル システム内のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move samplefile mystorage/samplefile
```

ファイルのコピー

次に、slot0: ファイルシステムのルートディレクトリから、samplefile というファイルを mystorage ディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy slot0:samplefile slot0:mystorage/samplefile
```

次に、カレント ディレクトリ レベルからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy samplefile mystorage/samplefile
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュからスタンバイ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy bootflash:system_image bootflash://sup-2/system_image
```

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```
switch# copy nvram:snapshot-config nvram:startup-config
```

```
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config:
Do you wish to continue? {y/n} [y] y
```

copy コマンドを使用して、slot0: または bootflash: ファイル システムと、FTP、TFTP、SFTP、または SCP サーバの間でファイルのアップロードおよびダウンロードを行うこともできます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイル システムから削除できます。

はじめる前に

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | pwd 例： switch# pwd | (任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。 |
| ステップ 2 | dir [<i>filesystem</i> : <i>[/module/][directory]</i>] 例： switch# dir bootflash:test | (任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。 |
| ステップ 3 | rmdir [<i>filesystem</i> : <i>[/module/][directory]</i>] 例： switch# rmdir test | ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 |

ファイル内容の表示

次に、外部フラッシュ デバイスのファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file slot0:test
configure terminal
interface ethernet 1/1
no shutdown
end
show interface ethernet 1/1
```

次に、カレント ディレクトリにあるファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file myfile
```

ファイル チェックサム の表示

次に、ファイルのチェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum
583547619
```

次に、ファイルの MD5 チェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg md5sum
3b94707198aabefcf46459de10c9281c
```

ファイルの圧縮および圧縮解除

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# dir
1525859 Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
...
switch# gzip volatile:Samplefile
switch# dir
266069 Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile.gz
...
```

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します。

```
switch# dir
266069 Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile.gz
...
switch# gunzip samplefile
switch# dir
1525859 Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
...
```

show コマンド出力のリダイレクト

次に、出力を bootflash: ファイル システム上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > bootflash:switch1-intf.cfg
```

次に、出力を外部フラッシュ メモリ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > slot0:switch-intf.cfg
```

次に、出力を TFTP サーバ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > tftp://10.10.1.1/home/configs/switch-intf.cfg
Preparing to copy...done
```

次に、**show tech-support** コマンドの出力をファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show tech-support > Samplefile
Building Configuration ...
switch# dir
1525859 Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
Usage for volatile://
1527808 bytes used
19443712 bytes free
20971520 bytes total
```

ファイルの検索

次に、現在のデフォルトディレクトリ内でファイルを検索する例を示します。

```
switch# find smm_shm.cfg
/usr/bin/find: ../lost+found: Permission denied
./smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/routing-sw/smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/smm_shm.cfg
```

ファイルシステムパラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイルシステムパラメータのデフォルト設定を示します。

表 2: デフォルトのファイルシステム設定

| パラメータ | デフォルト |
|----------------|------------|
| デフォルト ファイルシステム | bootflash: |

ファイルシステムに関する追加情報

ここでは、ファイルシステムに関する追加情報について説明します。

ファイルシステムの関連資料

| 関連項目 | 参照先 |
|------------|--|
| ライセンス | 『Cisco NX-OS Licensing Guide』 |
| コマンドリファレンス | 『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Fundamentals Command Reference』 |

ファイルシステムの機能の履歴

次の表に、この機能のリリースの履歴を示します。

表 3: ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの機能の履歴

| 機能名 | リリース | 機能情報 |
|------------------------------|--------|--|
| show コマンドの出力のリダイレクション | 4.2(1) | ファイルにリダイレクトする場合の show コマンドの出力形式を変更できます。形式は ASCII 形式、または zip 形式です。 |

